

時衆の美術と文芸

遊行聖の世界

目次

ごあいさつ

目次

凡例

特別寄稿 時衆と阿弥文化

林屋辰三郎 7

第一編 歴史編

1 遊行の誕生

今井 雅晴 14

2 一遍上人の遊行と一向俊聖

今井 雅晴 19

3 阿弥陀信仰と神祇

高野 修 27

4 遊行上人と民衆

長島 尚道 29

5 時衆の布教と定着

梅谷 繁樹 38

一 遍智真／善光寺と熊野／踊り念仏／名号と賦算／
遊行と祈り／一向俊聖／真教上人と教団の展開／陣僧

6 時衆の地方展開

● 京都の時衆

梅谷 繁樹 68

● 近江の時衆

高野 修 71

● 甲斐の時衆

長島 尚道 74

● 時宗総本山清浄光寺の創建

高野 修 76

図版構成

京都 六条道場・浄阿真観と四条道場・国阿上人と正法寺／
近江 多賀大社／甲斐／遊行寺

第二編 美術編

- 1 時衆の美術 ————— 濱田 隆
- 2 時衆の肖像彫刻について ————— 田辺三郎助
- 3 祖師絵伝 ————— 有賀 祥隆

図版構成

信仰の書 經典／信仰の形 画像／木彫像／善光寺如來／
祖師のすがた 初祖・二祖の肖像／列祖のすがた／
祖師のすがた 肖像画／絵巻 一遍聖絵／遊行上人縁起絵／
祖師絵伝と教義の絵画化／上人の書

第三編 文芸編

- 1 遊行と文化の伝播 ————— 金井 清光
- 2 時衆の芸能 ————— 金井 清光
- 3 時衆の文芸 ————— 金井 清光

図版構成

和讃・声明／和歌と歌学／連歌と連歌会／
能楽と時衆文化／東山文化の担い手／職能の拡がり

- 時衆の伝統行事 ————— 高野 修
- 時衆年表 ————— 遠山 元浩
- 主要参考文献 ————— 長島 尚道
- 図版目録 ————— 185
- 関連地図・略系図 ————— 183
- 一遍、遊行の足跡（二三九～八九年） ————— 179
- 真教、遊行の足跡（二二八九～一三〇四年） ————— 172
- 遊行・藤沢上人略系図 ————— 185
- 時衆遊行派寺院の分布（中世末～近世初頭） ————— 183

■ コラム

- 河野氏 26
- 一遍の御廟所 26
- 御砂持 48
- 時宗の紋 48
- 不往生 103
- 時衆と時宗 104
- 遊行上人と藤沢上人 104
- 小栗伝説 159
- 実盛供養の史実と芸能化 160
- 敵御方供養塔 160

中世は政治上もまた社会的にも大きな変革を遂げた時代でありますが、他方仏教においてはかかる変革期に対応するように、広く民衆への教化・救済が至上命題とされたのであります。このような中であって、遊行・賦算（お札くばり）・踊り念仏・神祇信仰など日本的とも言うべき信仰手段によって幅広く救済を果たしたのは一遍にはじまる時衆であります。一遍の実践行動は二祖真教に受けつがれてさらに多くの人びとの心を把え、教団の確立につながるのであります。以後代々の祖師は両祖の教えを守り、中世を通じて繁栄の秋を迎えました。ことに動乱の南北朝期には武士たちに対して、日頃の教養事から死後の供養にいたるまで献身的奉仕につとめましたので、時衆への帰依を深めることとなります。他方、有力な時衆寺院には和歌、連歌、立花など文芸や芸能に携わる人びとが参集しましたが、その周辺からは足利將軍に近侍する同朋衆と呼ばれる職能者も登場することになります。本展はこのような中世時衆教団の輝かしい活躍の姿を、その内と外から多面的に紹介することに努めました。出品の選定にあたっては関係する各館の研究者の衆知を集め、かつ地域の特色をも加味するように配慮しました。本展の趣旨に御賛同を賜わり、御出品ならびに御協力を惜しまれなかつた関係の寺院や所有者、および関係各位に対し深甚の謝意を表するものであります。

山梨県立美術館

長野市立博物館

藤沢市教育委員会

大津市歴史博物館